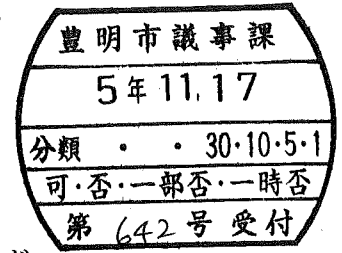


<参考>様式第4号

令和5年 11月 17日

豊明市議会議長 殿



研修会・講演会等参加報告書

議員名 青木 けんじ

令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日付	研修先	研修項目及び成果等
令和5年10月25日 ～ 10月26日	福岡県 北九州市小倉 (西日本総合 展示場新館)	第18回 全国市議会議長会研究フォーラム 「躍動的でワクワクする市議会に」 「統一地方選挙の検証と地方議会の 課題」 「議員のなり手不足問題への取り 組み」 別添：報告書

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

令和5年度
研修会・講演会等参加報告書

令和5年11月17日
豊明市議会議員 青木 けんじ

令和5年10月25日(水)～26日(木)
福岡県北九州市小倉 (西日本総合展示場新館)
第18回 全国市議会議長会研究フォーラム

10月25日(水)

□「躍動的でワクワクする市議会に」

講演者： 片山 善博 氏 (大正大学教授兼地域構想研究所長)

現在は政治、議会に対して興味を持っていない有権者が多いが、なぜ興味を持っていないのか検証すべきである。

もっと真剣な議論を広げ、住民の目に留まるような状況を作る。住民の声を聞く場をもっと設けて意見を吸い上げる。

税に関する議論や予算に関する議論など真剣で丁寧な議論や活発な活動が、議会を盛り立て住民の目に留まり、興味も上がる。

など、議会を盛り立てるにはといった内容の講演であった。

□「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

コーディネーター： 谷 隆徳 氏 (日本経済新聞社編集委員)

パネリスト： 勢一 智子 氏 (西南学院大学法学部教授)

： 辻 陽 氏 (近畿大学法学部教授)

： 濱田 真理 氏 (StandbyWomen 代表、女性議員の

ハラスメント相談センター共同代表)

： 田中 常郎 氏 (北九州市議会議長)

【谷 隆徳 氏】

統一地方選挙では投票率の低下傾向が続いている。県議会、市議会・町村議会においてでも無投票当選があり、21市町村では定数割れもあった。その中、大きな特徴としては女性議員の増加がみられた。

【勢一 智子 氏】

現在、地方議会議員は市区議会議員で約半数、町村議委員で1/4ほどが議員専業で、以外は他の業務に携わっている現状がある。

地方議会として、多様な人材として勤務者や女性、若者、育児・介護に携わる者の議会参画の機会。デジタル技術を活用した情報発信。住民が議会に参画する機会の充実への取り組みが必要となってくる。

【辻 陽 氏】

人口規模によって議員報酬に差があり専門化ができない地域もある。
首長と議会が同じ住民の代表として対峙する「二元代表制」としての理想は議会議員が議会活動に専念できる「専門化」の環境づくりが必要となってくる。
大規模自治体などでは、現職が広報費を多額に支出し実績を広めることが出来るが、新人候補には機械や費用が捻出できず参入しにくい現状がある。

【濱田 真理 氏】

地方議員に対し、有権者や、支援者、他の議員からハラスメントの面で、立候補を断念したり、辞職を考えたりすることもある。
男性女性問わず、多いのはパワーハラスメント。女性はセクシャルハラスメントやマタニティハラスメントなども起きている。
様々なハラスメントへの相談体制やルール作りをしておくことが重要となっている。

【田中 常郎 氏】

投票率の低下などの改善のために、議員と気軽に話せる意見交換の場を設けたり、政治に対する意識向上のため、青年会議所主催でドリームサミット（中学生議会）を開催。また平和のまちスタディーツアー（議会棟視察）の催行、市民の声を聴いての条例立案など住民が参画する活動を実施。

10月26日（木）

□「議員のなり手不足問題への取組報告」

- コーディネーター： 江藤 俊昭 氏（大正大学社会共生学部公共政策学科教授）
- パネリスト： 辻 弘之 氏（登別市議会議長）
- ： たぞえ麻友 氏（一般社団法人 WOMEN SHIFT 理事
目黒区議会議員）
- ： 永野 慶一郎 氏（枕崎市議会議長）

【江藤 俊昭 氏】

投票率は、一部を除いて過去最低となっている。新たな傾向として女性議員の割合が過去最高となった。しかし、半数には及ばない。
投票率の低下、無投票当選者の増加や多様化（年齢、性別、職業等）の欠如といった地域政治の問題に取り組んだ実践を紹介。

議員のなり手不足の要因	解消の方途
魅力の減衰（不透明、非活発 等）	住民と歩む議会、住民福祉の向上に貢献する議会の創造
条件の悪さ（報酬の低さ、定数により当選ラインの上昇 等）	議員報酬の増額、議会事務局の充実
地域力の減衰（立候補予備軍、担い手の衰退）	住民福祉の向上につなげる議会による地域活性化
法制度の拘束（兼職・兼業禁止）	現場からの法改正案

【辻 弘之 氏】

地方議員養成講座を開講。(運営委員は道内市町議員、大学教授、同町職員)

- ・なり手を育てることを考え、行政や議員の使いみち、まちの仕組みを学び未来のリーダーを育てていくことをコンセプトに実施。
- ・受講者の中から統一選で30名が立候補、うち20名が当選。

【たぞえ麻友 氏】

若手女性議員のネットワーク&ママの議員インターン

- ・一般社団法人WOMEN SHIFTを設立し、超党派の議員のネットワーク形成。
- ・議員を応援したい、関わってみたいという市民とのつながりと活動の創出。
- ・女性議員を増やす活動や議員を目指す若手女性への選挙講座、政策共有+悩み共有などの会を開催。
- ・住所非公開や旧姓使用への提言。
- ・ママの議員インターンを実施し、自治体行政の仕組みや議員の仕事を学び、イベント企画で市民課題を解決につなげ、自治体のサービスの調査、フィードバックを行う。

【永野 慶一郎 氏】

- ・無投票克服を目指し、青年会議所、商工会議所青年部など、まちづくり・まちおこしを担う若手経営者に議員を目指すよう奔走するも、候補者の家族の理解が得られないことや議員報酬などが高い壁となり実現につながらない。
- ・議員定数削減の声が上がり、勘案した結果、議員定数削減に踏み切る。

□所感

全国的な投票率の低下について、各地域での状況、対策としての活動などを伺い、改めて、若い世代を中心とした住民の関心の低さに憂いを強く感じる事となった。

立候補者が少なく無投票や定数割れが起きることを心配して定数削減する動きもあるようだが、適正な定数を確保できるように、本来の地方自治のあり方を再考する必要があるのではないかと考える。

情報をしっかり伝えるようにし、見えない不安感をなくし、自分たちの生活に直結する内容を受け止められるようにすることで、身近に感じられることが出来れば関心を持てるのではとも感じた。

議員報酬に関しては地域格差があり、報酬額が低い地域では、議員専業としてすべての時間を議員活動にそそぐためには、困難な状況ではあると考える。

